

細胞マーカーを発現していた。

考察：iPS- MSC は骨芽細胞、脂肪細胞、軟骨芽細胞に効率よく分化することから様々な組織再生に応用できると考えられた。また iPS- MSC は移植しても腫瘍を作らず骨再生に寄与することから、安全性の高いものであると考えられた。

結論：iPS- MSC から分化させた MSC は、顎骨再生に対して有用な細胞ソースとなることが明らかになった。

2. エプーリスに生じた扁平上皮癌の 1 例

A clinical report : squamous cell carcinoma happened in epulis

○小原 瑞貴, 宮本 郁也, 阿部 亮輔,
高橋美香子, 山谷 元気, 武田 啓,
武田 泰典*, 山田 浩之

岩手医科大学口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野, 岩手医科大学口腔顎顔面再建学講座臨床病理学分野*

【緒言】：エプーリスは肉肉歯槽部に生じた良性の限局性の腫瘍に対する臨床的な総称であり、多くは炎症性あるいは反応性の増殖物である。エプーリスは日常臨床で遭遇することのある病変だが、二次的に悪性腫瘍が生じたとする報告はわれわれが渉猟した限り認められなかった。今回われわれは、エプーリス頸部から生じた極めてまれな扁平上皮癌の 1 例を経験したので報告する。

【症例】：91 歳女性。近在歯科より左側下顎歯肉部の腫瘍の精査依頼で当科を受診した。患者は特別養護老人ホームに入所中で、腫瘍の発生時期は判然としなかった。左側下顎前歯部歯肉に 15 × 10mm 大の表面はまだら状の発赤を伴った粘膜色、弾性軟、有茎性の腫瘍を認めた。腫瘍部に歯は認められなかった。上顎は部分床義歯、下顎は全部床義歯を使用していた。

【処置および経過】：エプーリスの臨床診断のもと、切除生検を施行した。病理組織検査の結果、エプーリスの頸部粘膜上皮から生じた高分化から中分化型扁平上皮癌を認めた。扁平上皮癌の診断を受けて精査を行ったが、転移等は認めら

れなかった。切除生検の検体切除断端に悪性所見を認めたため、追加切除施行。十分な安全域を設け、周囲粘膜および下顎辺縁切除術を施行した。術後 4 か月経過したが、経過良好で、現在特に問題を認めていない。

【考察】：本例は、エプーリスの頸部粘膜上皮より生じた扁平上皮癌であった。口腔内扁平上皮癌の発生機序として、慢性刺激等の物理的因子、喫煙やアルコール等の化学的因子、そして乳頭腫ウイルス等の生物学的因子が挙げられ、本例の場合、エプーリス頸部が不潔域であり、機械的刺激をはじめとする応力などが関わったことが考えられた。

3. ベトナム社会主義共和国における口唇口蓋裂診療派遣事業

Cleft Lip and palate medical treatment dispatch business in the Socialist Republic of Viet Nam

○大橋 祐生, 飯島 伸, 角田 耕一*,
角田 直子, 山田 浩之

岩手医科大学歯学部口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野, 奥州市国民健康保険まごころ病院歯科口腔外科*

【緒言】NPO 法人 日本口唇口蓋裂協会（以下、口唇口蓋裂協会）が中心となって行っている海外医療援助活動に参加したので、その概要を報告した。

【概要】口唇口蓋裂協会は、1992 年からベトナム社会主義共和国（以下、ベトナム）にて口唇口蓋裂の医療援助活動として無償手術や診療を行っている。これまでに 1,200 人を超す医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、言語聴覚士、医学生、歯学生をはじめとするボランティアが参加してきた。

ベトナムの人口は 9,720 万人で、面積は日本とほぼ同じく 329,241㎡である。ホーチミンなどの主要都市は近代化が目覚ましいが、医療援助の活動拠点となっているベンチェ省は、住宅や道路整備が未だ不十分で、ジャングルの中で生活している人も多数見られ、主要都市との格差が広がっている。また、ベンチェ省やその周